



No.1

輪島市立門前学園

令和8年4月13日

文責 教頭

「やってみる」「なかよくする」「新しく考える」

4月7日に開校式が行われ、いよいよ「輪島市立門前学園」が新しいスタートを切りました。80名の全校児童生徒は、門前学園の記念すべき第1期生です。

門前学園は小中9年間を見通した教育活動を行う義務教育学校です。義務教育学校では、これまでの小学校や中学校との違いがいくつかあります。小学校の課程を「前期課程」と呼び、中学校課程を「後期課程」と呼びます。また、中学1年生から3年生までは「7年生・8年生・9年生」と続いた学年で呼ぶことになります。これまでとの違いに戸惑うこともあるかと思いますが、この違いを楽しみながら新しい学校生活をつくっていきたいと考えています。

また、運動会や文化祭などの行事も、小学校・中学校の良さが活かせるように融合させていきます。さらに、改修工事の影響で、今までできていたことがしばらくできないこともあります。児童生徒、保護者、教職員にとって「初めて」がたくさんある毎日になりますが、協力できる仲間が大勢いることを強みとして知恵と工夫で乗り越えるチャンスとしたいと思います。

さて、後期課程の生徒には、これまで何度も伝えてきた言葉があります。それは、“Be the first penguin.”「(大海に飛び込む)最初のペンギンになりなさい。」という言葉です。誰かがやるからではなく、まず自分から一歩踏み出す。初めてを恐れず、勇気をもって新しい世界へ飛び込む。その気概を持つ子どもたちを育みたいと考えております。これが門前学園校訓の一つ目、「**進取**」です。

また、入学式で新入生に伝えたのは「言葉を大切にすること」です。相手のことを考え、優しい言葉を使うこと。自分の言葉に責任をもつこと。それは、周りの人を大切にすることにつながります。これが門前学園二つ目の校訓、「**共生**」です。

そして、今できる精一杯のことは何か、みんなでいるからこそできることは何かを考え、新しいものを生み出していく。これが門前学園三つ目の校訓、「**創造**」です。

やさしく言い換えると、「やってみる」「なかよくする」「新しく考える」ということです。門前学園がどのような学校になるかは、門前学園に関わる全員にかかっています。校歌の歌詞にあるように、この学園が児童生徒の笑顔が集い、やさしい気持ちであふれる学園となるように、教職員一丸となって支えていきたいと思っています。保護者の皆様、地域の皆様にもご協力をお願いいたします。

校長 小川由美子